

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんざいだんほうじんにほんきょうげきしんこうきょうかい 一般財団法人 日本京劇振興協会		団体ウェブサイトURL <a href="https://www.shincyo.com/">https://www.shincyo.com/</a>
代表者職・氏名	代表理事 潮新		
制作団体所在地	〒 156-0055	最寄り駅(バス停)	船橋六丁目
	東京都世田谷区船橋6丁目7-1 エスカイア千歳船橋103号		
電話番号	03-6411-4168		
ふりがな 公演団体名	しんちょうげきいん 新潮劇院		団体ウェブサイトURL <a href="https://www.shincyo.com/">https://www.shincyo.com/</a>
代表者職・氏名	主宰・張春祥(本名:潮新)		
公演団体所在地	〒 156-0055	最寄り駅(バス停)	船橋六丁目
	東京都世田谷区船橋6丁目7-1 エスカイア千歳船橋103号		
制作団体 設立年月	2016年1月(任意団体としては1996年 1月)		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事 潮新 常務理事 梅木俊治/理事 加藤徹 評議員:佐藤信、劉穎、平林宣和 監査:山下輝彦		役員3名(うち非常勤1名) 評議員3名 監査1名 非常勤職員3名
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	梅木 俊治 根目澤 容子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	梅木俊治
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:jyunkai@shincyo.com">jyunkai@shincyo.com</a>		

<p><b>制作団体沿革</b></p>	<p>祖父の代から三代に渡って受け継ぐ京劇一家に生まれた張春祥が日本での京劇普及と日中文化交流を目的に設立。在日京劇俳優と日本人俳優とで構成され、日本人にもわかりやすく京劇を伝えるとともに、コラボレーションや新編京劇創作などの先駆的試みも行う。日本人俳優の育成にも務めている唯一の在日京劇団。</p> <p>1996年 在日京劇団「新潮劇院」として設立  1999年 日本人舞台俳優とのコラボレーション、日本人向け演出、日本語セリフ導入を開始  2000年 初となる創作京劇「中国の不思議な役人」上演  2002年 一般向けの京劇教室開講  2009年 元中国戯曲学院講師・張桂琴を招いての京劇俳優研修制度開始  2014年 中国最高峰の児童伝統芸能コンテスト「小梅花」金賞を受賞  2016年 「一般財団法人 日本京劇振興協会」として法人化  2018年 子供京劇団「世田谷こども京劇団」設立  2020年 能楽・京劇コラボレーション作品「霸王別姫～能楽と京劇 日中ユネスコ無形文化遺産の融合～」を令和2年度(第75回)文化庁芸術祭参加公演として上演  2022年 文化庁「ARTS for the future!」補助事業 中国伝統芸能コラボレーション公演「鍾馗 病魔を斬る」上演、など</p>					
<p><b>学校等における公演実績</b></p>	<p>2009年 日暮里サニーホール 楽しい京劇の時間(小学生向け京劇ワークショップあり)  2011年 群馬県高崎小学校での京劇公演  2014年 成城ホール・清瀬けやきホール・柏アミュゼ「子どものための京劇体験教室」  2015年8月 久留米シティプラザブレ事業「夏休みだ！ 京劇 やってみる観る?!」  2016～2018年 ヨコハマアートサイト2016「こども京劇プロジェクト」  横浜市内保育園・小中学校京劇公演と共演型公演実施  2016年 成城ホール「こども京劇」  2017年8月 福岡・大阪・東京にて日中子供伝統芸能交流公演  2018年度～横浜山手中華学校で発足した「京劇部」の指導担当  2019年12月～2020年1月 子どもゆめ基金助成事業「こども京劇プロジェクト in 兵庫」など  2020年11月～2021年2月 令和3年度大阪市演劇鑑賞会関連事業 京劇ワークショップ  (小学生をメインターゲットにしたワークショップ事業)  2021年2月 令和3年度大阪市演劇鑑賞会「はじめての京劇～孫悟空vs 白骨精」  (小学生をメインターゲットにした共演型公演事業)  2023年 第19回 子どもたちと芸術家の出あう街 参加(小学校アウトリーチ・子供へのワークショップ・実演)など</p>					
<p><b>特別支援学校等における公演実績</b></p>	<p>2017年12月 「ヨコハマアートサイト2017」にて横浜市立ろう特別支援学校での京劇上演  2018年7月 千歳台福祉園にて京劇上演  2019年1月 社会福祉法人 同愛会 リエゾン笠間にて京劇上演  2019年9月 千歳台福祉園にて京劇上演  2019年9月 社会福祉法人 同愛会 リエゾン笠間にて京劇上演  2021年3月 千歳台福祉園にて京劇上演  2022年3月 千歳台福祉園にて京劇上演(オンライン)  文化庁の学校巡回公演事業において、特別支援の生徒・児童の参画・共演が複数回あり。</p>					
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>				
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/kZPtZWOJQFM">https://youtu.be/kZPtZWOJQFM</a></p>				
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="933 1825 1005 1870">ID:</td> <td data-bbox="1005 1825 1433 1870"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="933 1870 1005 1904">PW:</td> <td data-bbox="1005 1870 1433 1904"></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:						
PW:						

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 新潮劇院 】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	新潮劇院 京劇公演「孫悟空 天界で大暴れ」				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>孫悟空 天界で大暴れ ～西遊記より～ (古典演目/脚本・演出 張春祥) 【プログラム構成】 ・上演前レクチャー(15分) ・京劇「孫悟空 天界で大暴れ」鑑賞及び共演(60分) ・カーテンコール、集合写真撮影(5分)</p> <p style="text-align: right;">公演時間 80 分</p>				
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし		該当コンテンツ名	
	該当事項がある 場合	権利者名		許諾確認状況	
演目概要	※別添あり(1)				
演目選択理由	2015年度より文化庁巡回公演事業に採択され、自主公演を含む学校向け・児童向けの公演として磨きをかけ続けている当団体の代表演目です。「孫悟空」というキャラクターは、外国文化でありながら日本の子供たちにとって馴染み深く、そのコミカルな魅力は直ちに児童・生徒たちに受け入れられ、京劇の世界に没頭する助けとなります。また、セリフよりも表情やしぐさが重要な要素となっており、中国語に関する事前知識を必要とせず、中学生から小学校低学年、さらには幼児まで、広い年齢層が楽しむことができる点が魅力です。派手なアクションやアクロバットが多く登場し、若い世代の関心を引きつけるでしょう。これらの要素は、公演の後に他の中国文学や国際的なテーマに対する興味を高める一助となります。				
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	※別添あり(2)				
出演者	<p>主役(孫悟空):石山雄太 東京都浅草生まれ。小学生のとき来日公演の京劇「孫悟空」を見て以来京劇に魅了され、高校卒業後、中国戯曲学院(中国で京劇を専門に教える唯一の大学)に留学。卒業後は中国トップの京劇団・中国京劇院(現・中国国家京劇院)に所属。京劇界初の外国人の京劇俳優として活躍。帰国後、京劇普及のため精力的に公演活動続ける。専門の役柄は立ち回りを交えた幅広い演技力を要求される道化役「武丑(ぶちゅう)」。2017年より立教大学兼任講師を務める。</p> <p>他出演:張春祥(新潮劇院団長)/張桂琴(元中国戯曲学院講師)/侯偉(上海京劇院出身)/劉東風(北京京劇院出身)など計10名</p>				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 10 名	運搬	積載量: 2 t		
	スタッフ: 3 名		車長: 4.8 m		
	合計: 13 名		台数: 1 台		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		1	時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出	
	前日18時	設営:前日18~19時 メイク・着付:9~13時	13時~14時半	なし	14時半~17時	17時	
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。							
本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月		
	10日	10日	0日	9日	13日		
	11月	12月	1月	計			75日
	15日	10日	8日	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			
児童・生徒の 参加可能人数	本公演		共演人数目安		6~26名		
			鑑賞人数目安		最大 600名程度		



図1) 舞台配置

床面に絨毯を引いて舞台にします。

(5.4m×7.2m)

体育館舞台は緞帳を下ろし、着替えと通り抜けの場所になります。左右には袖幕を立て字幕も表示。低学年の子でもわかるように簡易にし、フリガナもふっています(中学校用の字幕も用意があります)。完全に暗くする必要はありませんが字幕を表示する都合により暗幕は使用して自然光を遮断します。



図2) 共演の子供は袖幕裏で鑑賞します



図3, 4) 俳優控室でメイクを行い、体育館ステージで衣装着付けをします



図5) プロの京劇俳優たちが子供たちと共演しながら舞台を上演します。京劇には大がかりな舞台装置もなく、設営や撤収に時間があまりかかりません。

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	本公演共演者 6~28名 +ワークショップ 600名程度
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p><b>[京劇レクチャー]</b> 「伝統芸能とは何か？」から始まり、中国伝統芸能「京劇」についての歴史・様式、そして今回上演する演目の概要について説明していきます。</p> <p><b>[共演者への指導]</b> 事前に公演で出演していただける児童・生徒の参加希望者を募っていただき、プロの俳優が共演に向けての指導をします。役柄は天兵、小猿、仙童の三種類。</p> <p><b>[京劇所作や立ち回りの体験]</b> 共演しない児童・生徒は「圓(ユアン:まる)」を基本とする京劇の優雅な所作や指使いについて体験します。会場スペースがあれば新聞紙を丸めた武器の代用品を準備してもらい、立ち回りの基礎も指導します。時間があれば簡単な発表の場も設けます。</p> <p><b>[劇中の唱・セリフ指導]</b> 共演しない児童・生徒には劇中のキーポイントとなる唱・セリフを指導し、本編で実際に言ってもらうための練習をします。</p> <p><b>[リハーサルの観覧]</b> 指導を受けた共演者たちがリハーサルを受ける様子を観覧します。</p> <p><b>[その他]</b> 学校の希望がありましたら交流給食、俳優への質疑応答などに対応します。</p>		  
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>※別添あり(3)</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>●特別支援学校での実施 派手な衣装・メイク、おおげさな様式による感情表現など「ノンバーバルな演劇」としても成立していますので、特別支援学校においても特に改変なく上演は可能です。児童との共演に関しては障害の重さ・内容によってどのような対応ができるかは変わって来ますので、事前に学校担当者の方と綿密に連絡を取り内容を都度調整させていただいて、スムーズに実践ができるように尽力致します。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

新潮劇院

】

**①本事業に対する取り組み姿勢**

日本において長年にわたり京劇普及活動をする当財団にとって、次代の日本文化を担う子供たちへ京劇振興活動を実施することは重要事項となっています。特に、通常の自主事業では到達が難しい地域を巡回し、多くの生徒・児童・地域の方々に京劇の魅力を伝えることができる本事業は活動の中核であり、最重要の課題と位置づけています。

平成31年度以降の本事業に採択されない期間においても、自主事業として子供たちとの共演型京劇公演、子供向けワークショップ、地域青少年団体への京劇上演、学校演劇や部活動の指導などを積極的に実施し、子供たちに外国文化への興味を育む機会を提供してきました。その中で、「いかに子供たちに楽しく・わかりやすく京劇を伝え、舞台芸術に関心を持ってもらえるか」の検討を重ねた過程も評価され令和4年度に再び本事業に採択されました。

再採択後も、これまでの実績を元に漫然と事業を継続するのではなく、コロナ禍における感染対策への細やかな対応、学校の状況に応じてより鑑賞をしやすくするための工夫、全児童・生徒が参加できるスタイルのブラッシュアップなど、日々クオリティの向上に務めています。今回の申請に際しても共演参加人数の増加、字幕・照明機材の強化、俳優増員による公演内容の充実などを検討しました。様々な学校環境で、より多くの子供たちが品質の高い公演に触れられるようにしています。

上記に伴い、前年度より多少コストは上昇しましたが、物価高やインボイス対応などが続く中でも参加メンバーが協力的で人件費は据え置きとなっていることもあり、コスト上昇を抑えながら品質は大幅に向上し、費用対効果としてより優れた実演内容となっています。

これらが実現できているのは元々旅芸人が行っていた京劇というフレキシブルな伝統芸能の特性と、日本と中国の文化を結ぶ使命感を持ったメンバーが揃っていることが背景となります。中国人と日本人が協力して活動する国内唯一の在日京劇団として、外国伝統芸能をわかりやすく子供たちに伝えるとともに、国籍や人種を超えた文化芸術に取り組む姿勢を子供たちに示しています。

中国関係の団体で活動する方には「子供のときに京劇を観た」という人は多く、子供の頃に京劇を鑑賞した経験が将来の芸術家育成、文化振興、国際友好に大きく貢献することを信じています。特に地方の子供たちにとって、京劇を鑑賞する機会は一生涯に一度の貴重な経験かもしれません。この貴重な時間に対して、当団体は全力で取り組み、心からのサポートを提供します。

これまでの巡回公演から得た児童・生徒・教員からの評価や感想は、俳優たちの自信と活動へのエネルギー源となっています。引き続き令和6年度も本事業に採択され、当団体文化振興活動の原動力として、活動を進めていくことを誠に願っております。

**②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫****[事前資料と電話による確認]**

これまでの実績をもとに、実施手順や必要資料は手順ごとにわかりやすくドキュメント化されています。これを学校にメールにて送付した後、担当先生の都合よい時間で、電話を通じて手順確認を行います(約1時間程度)。このプロセスで、現地訪問をせずともワークショップ・本公演の認識ずれがほぼなくすり合わせ完了し、担当者が変わってもスムーズに進行することができます。学校の教員の負担を最小限に抑え、柔軟な対応を可能にします。

**[シンプルでフレキシブルな舞台設営]**

現代演劇では舞台装置が大掛かりなものも多いですが、京劇の舞台装置は簡素で設営に時間を取らず、特殊な装置が不要なため学校の設備状況にも殆ど制約を受けません。空間に応じて自在に演技スペースの調整ができ、広さの制約なく、ほとんどの場所で公演できます。

**[出演者の役割兼任]**

出演者が設営・裏方作業も兼任し、人件費を削減しています。これにより、低コストで巡回事業を実施でき、限られた予算で多くの学校にて京劇上演することができます。

**[教材提供]**

学校には京劇に関する教材も提供されます。これを授業に取り入れることで、子供たちの京劇への理解を深め、観劇体験をより楽しいものにします。

これらの工夫により、京劇の学校巡回公演を効果的に実施し、多くの子供たちに舞台芸術の魅力を伝える体制を整えています。

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫

リンク先	No.2	【公演団体名	新潮劇院	】
<p style="text-align: center;">演目概要</p>	<p><b>【上演前レクチャー】</b> 日本人俳優による楽しいレクチャーがあり、京劇舞台の鑑賞方法に関する予備知識を得ながら、和やかな雰囲気の中で鑑賞に臨むことができます。演劇鑑賞は「静かに見る」というのが一般的な印象ですが、京劇は元々茶館で気軽に観劇していた芸能で、観客も一緒に歓声を上げて応援することができることを伝えます。拍手や「好(ハオ)！」の掛け声の練習は毎回大変に盛り上がります。</p> <p><b>【本編:孫悟空 天界で大暴れ】</b> 日本の「歌舞伎」のように中国を代表する伝統芸能「京劇」。その中で日本人にも人気のある「孫悟空」の演目を上演。</p> <p>○あらすじ 『孫悟空』が三蔵法師と出会う前、暴れん坊の頃のお話。『孫悟空』のいたずらにすっかり手を焼いた神々は、天界での役職を与え、おとなしくさせようと考えたのですが『孫悟空』は神々の宴を荒らして大暴れ、ついには神々との戦いに。</p> <p>○みどころ 派手なメイクと豪華な衣装の中国伝統芸能「京劇」は日本の伝統芸能とは全く趣の違った強い印象を持っています。そして京劇の中でも特殊な存在であり、多くの京劇俳優が演じたいと夢見るキャラクターが『孫悟空』です。彼がまだヤンチャな時代の自由闊達な様子や、サルとも人間ともつかない不可思議で豊かな表情、そして得意の棒術による立ち回りの激しさは古今にわたって観客の心をつかんで離しません。また、天界の神々は、それぞれ独特な限取を施しているのも特徴的です。クライマックスの大立ち回りは必見。</p>	   		
	<p><b>【その他特徴】</b> ○舞台両側には日本語字幕がつきますが、俳優のオーバーな表情・しぐさだけでも十分内容は伝わる上に、各場面ごとに日本語のナレーションも入ります。冒頭には日本語のセリフを話す俳優も登場し、字幕を追うことに捕らわれず鑑賞できます。</p> <p>○主演の石山雄太は日本人でありながら子供の頃より京劇の孫悟空に憧れ、単身、本場中国に渡って中国人でも難関である最高峰の劇団「中国国家京劇院」に所属するまでに至った、まさに『夢を叶えた』人物です。そんな彼の行動力と、芸術へと取り組む姿勢は子供たちに感銘を与えます。</p> <p>○舞台上では事前に指導を受けた子供たちが本物の京劇メイクと衣装とで舞台に登場し、単なるゲストではなく、ストーリーの進行上必要なキャラクターとしてお芝居を演じます。</p>			

リンク先	No.2	【公演団体名	新潮劇院	】
<p>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>				
	<p>①事前のワークショップに参加した児童・生徒代表が、本物のメイク・衣装で本編に登場。ストーリーの進行上必要なキャラクタとしてプロの京劇俳優と共演します。チームごとに立ち回り、アクロバット、旗のマスクゲーム、中国語セリフなどを繰り返します。終演後には集合写真を撮影します。</p>			
	<p>②学校の教員もメイクをして登場します。最初は誰かわからない子供たちも、正体が明かされると大変に驚き、舞台も盛り上がります。</p>			
	<p>③事前のワークショップで練習した京劇の唱を劇中全員で唱和し、それをきっかけに物語が進行します。</p>			
	<p>④劇中には日本語を話す俳優が全員に「孫悟空はどこへ行ったかな？」などの質問をするなどして、俳優とのコミュニケーションを楽しみつつ、子どもたちも劇の一部として参加している一体感、没入感を深めます。また、京劇は観客が舞台に声援を送る習慣があり、公演前のレクチャーで拍手や「好(ハオ)！」の掛け声を事前に練習して、観客側にいる子どもたちも役者と一体になって演劇のライブ感を共有します。</p>			
	<p>⑤希望があれば上演前のバックヤード(舞台裏)見学に対応します。豪華な刺繍のある京劇衣装を間近で確認したり小道具の意味についてレクチャーを受けたりできます。また、京劇メイクの様子を見学し、何名かの子どもたちには簡単な京劇メイクを施すこともできます。</p>	 		



リンク先	No.3	【公演団体名	新潮劇院	】
ワークショップの ねらい	<p><b>【京劇レクチャー】</b></p>	<p>「伝統芸能」というものに全く触れたことがなかったり、中国のことをあまり知らなかったりして身近に感じられない子供は多いと思います。導入として「日本の伝統芸能」や「地域の行事・お祭り」などに触れていきながら「伝統芸能」といっても元々は庶民の娯楽として発展した身近なものであり、外国の伝統芸能でもそれは変わらないということを伝え「京劇」との距離感を近づけます。更に京劇独特の強烈なメイクや、実際の京劇映像などを紹介することで子供たちの興味関心を高め、上演する演目の紹介と絡めながら京劇の特徴・魅力について伝えていきます。</p>		
	<p><b>【共演者への指導】</b></p>	<p>「京劇」の技術は本場中国でも専門の学校でしか習得できず、一般には体験のできないものです。それが日本でプロの指導を受けることができ、さらに本物のメイク・衣装で舞台共演することは子供たちにとってもインパクトを与える貴重な体験となり、将来の芸術家の育成にも繋がります。特に普段は引込み思案な子が自己表現をする機会にはうってつけで、京劇の派手な衣装・メイクを装うことによって自信をもって舞台上で登場でき、自分の持ち技やセリフなどを友人たちの前で堂々と表現する体験をすることができます。芸術の楽しさを知るとともに、出演した子供たちの自己評価を高め、コミュニケーション能力や積極性を著しく成長させると毎回好評をいただいております。</p> <p>また、各チームごとに順番での演技指導となり、指導がない合間にはチームメンバー同志で「どうしたらうまくいくかな?」「この段取りはどうだっけ?」と、この新しい共通課題について自然とコミュニケーションを取りながら自主練習をしていくことになり、子供の自主性を引き伸ばしていきます。</p>		
	<p><b>【京劇所作や立ち回りの体験】</b></p>	<p>京劇は舞台装置がなく、俳優の演技・所作だけで状況・場面を説明する伝統芸です。映像や舞台でもビジュアル的な説明要素が多くなってきている現代の人間には一見わかりにくいですが、京劇の所作のいくつかでも「実はこういう意味がある」という話を聞きこすることで子供たちの発想力を刺激し、他の色々な所作についても、より想像を膨らませて楽しく鑑賞できるようになります。この体験は能楽といった同じ特長を持つ伝統芸能の鑑賞にも通じ、総じて芸術鑑賞能力の向上につながられます。</p> <p>京劇の動きの美しさは「圓(ユアン:まる)」という様子を由来としていますが、曖昧に見ているだけでは気づきにくいものです。その動きを実際に体験しておくことは本公演で繰り広げられる様式美への深い理解に繋がっていきます。また、日常では体験できないような身体の使い方や極端に誇張された表現方法に新鮮さと面白味を感じる子もいることでしょう。</p> <p>昔は新聞紙を使った「正義の味方ごっこ」といった遊びもよく行われていましたが、今の子供たちにはそのような経験も少ないと思います。子供が大好きな「戦いごっこ」をプロが指導しながら行うことで安全かつ楽しく体験でき、また本編中での激しく難易度の高い立ち回りができる仕組みも、このような基礎とお互いの理解があつてのことと理解できます。</p> <p>こういった様式技術は毎日の基礎練習を繰り返すことで習得されるもので、1日のワークショップではその触りを知ることができるのですが、実際には中国の戯曲学校で、自身と同年代の子供たちが連日訓練を行っています。彼らが俳優として舞台上に立つまでに日々どのような訓練をしているのか、芸術を極めることの困難さも知ることができます。</p>		
	<p><b>【劇中の唱指導】</b></p>	<p>本公演上演中のキーポイントとして唱和してもらうことで、共演することのできなかった児童・生徒にも舞台芸術へと参加できる機会を創出し、本編への参加意識を高めます。中国語は元々「四声」という抑揚のある言語ですが、京劇のセリフは「韻白(ユンバイ)」という更に抑揚が強い古語で、正に日本人にとって「歌舞伎」のセリフようになっていきます。また、その声調も客席に声を通るよう甲高い独特のもので、この馴染みない響きの体験も子供たちには楽しく感じられ、外国語への興味関心も増します。</p>		
	<p><b>【リハーサルの観覧】</b></p>	<p>最後に共演者たちがリハーサルを実施し、その様子を観覧することで、実際にメイク・衣装を纏った本編への期待感を高めるとともに、舞台が出来上がっていくまでの過程を知り、さらに本編では演劇における舞台装置・小道具の効果を体験できるようになっています。</p> <p>それぞれのチームは「格好良く隊列を組む」「自由気ままに振舞う」「可愛らしく動く」などそれぞれのキャラクタに合わせた動きを習得していきますので、同じ京劇であっても役柄によって動きが違うということをよく理解できるようになります。</p>		
	<p><b>【その他】</b></p>	<p>限られた時間の中で、少しでも俳優たちと子供たちとのコミュニケーションが多く取れるよう対応します。外国人・俳優というジャンルは身近にいない子供が多いので、興味・関心は大いにあると思います。</p>		